

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役

橋本 健一郎



2月の銅の概況及び3月の見通し (3)

	予想レンジ	
LMEセツル	8,500~9,500ドル	傘
建 値	125万~151万円	傘
為 替	145円~155円	円高
	(1か月間T T M)	

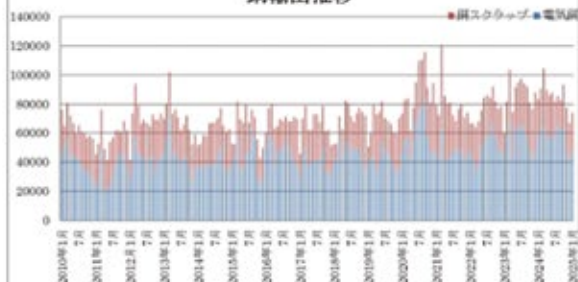
貿易関連指標

◆輸 出

電気銅	-17.3%	4万8,052 t
スクラップ	不 明	2万5,993 t

輸 出	1 1 月	1 2 月	1 月
電気銅	4万5,935 t	4万1,035 t	4万8,052 t
前年比	+14.9%	-13.7%	-17.3%
スクラップ	3万1,681 t	2万5,993 t	2万5,993 t
前年比	-13.9%	-35.9%	不 明

銅輸出推移



◆輸 入

電気銅	-83.4%	99 t
スクラップ	+61.5%	1万3,244 t

輸 入	1 1 月	1 2 月	1 月
電気銅	99 t	139 t	99 t
前年比	-96.5%	+531.8%	-83.4%
スクラップ	1万2,250 t	1万1,859 t	1万3,244 t
前年比	-66.3%	+48.5%	+61.5%

銅輸入推移



出典 財務省 貿易統計

国内概況のまとめ

◆自動車生産

生産動態統計によると、1月の自動車生産台数は、前年比+18.2%の64万8,550台。輸出は、前年同月比+3.2%の28万9,623台。

◆自動車販売

日本自動車販売協会連合会によると、2月の自動車販売台数(軽除く)は、前年比+15.9%の26万2,755台。

◆住宅着工戸数

1月の新設住宅着工は、持家、貸家、分譲住宅が減少したため、全体で前年同月比4.6%の減少となった。また、季節調整済年率換算値では、前月比1.2%の減少となった。

○新設住宅着工戸数は56,134戸

前年同月比4.6%減、9か月連続の減少

○新設住宅着工床面積は4,273千㎡

前年同月比4.9%減、9か月連続の減少

○季節調整済年率換算値では774千戸

前月比1.2%減、先月の増加から再びの減少

◆伸銅品生産

2025年1月の伸銅品生産動向速報値を公表した。1月伸銅品生産量速報値は5万1,160トン、前年同月比1.0%増加した。3か月ぶりプラスに転じた。それでもまだ前年の低調からの回復感が乏しい。

14品目中9品目が前年同月実績を上回った。

伸銅品の各用途別の需要概況は、このまま回復につながるコメントが少なく、あまり良い状況にない様子である。自動車は、前年の不正問題などによる国内減産から、やっと回復してきた。しかし、海外の自動車販売が伸びず、全体的にパツとしない。民生用の電子機器や部品も回復が見えない。住宅着工も伸びず人手不足から大型案件の建設も伸びない。

明るい話題は、ルームエアコンは在庫問題が解消し、好転していることと、スマートフォンやAI関連の需要がある。ただ、それも伸銅品の極一部の品目に限られている。

○銅 条

同比3か月ぶりプラス。ただ低調だった前年同月からの反発増で、数値自体依然として低調である。生成AIを中心に半導体の好調が話題となっているが、銅条の需要が回復しない。銅条が使われるリードフレームを搭載した半導体製品が回復しないためである。自動車向けは、海外の販売不振がマイナス要因となっている。

○黄銅棒

同比6か月ぶりプラス。人手不足から新規住宅着工件数が伸びない。設備機器も低調に推移。

(次頁につづく)

○電 線

前年比-2.3%の46,900 t。うち、国内が-2.7%。輸出が+29.9%。

◆輸 出

電気銅が-17.3%の4万8,052 t。スクラップは2万5,993 t。

◆輸 入

電気銅が-83.4%の99 t。スクラップは+61.5%の1万3,244 t。

■見通し

◆自動車

1月の自動車生産が+18.2%。2月国内販売台数が前年比+15.9%。販売、生産共に増加。トランプ関税による自動車販売の影響はあるが、まだ先か？

◆伸銅品生産

2025年1月の伸銅品生産動向速報値が公表された。1月伸銅品生産量速報値は5万1,160トン、前年同月比で1.0%増加した。3か月ぶりプラスに転じたが、それでもまだ、前年の低調から回復感が乏しい。

あまり良い状況にない様子である。自動車は、前年の不正問題などによる国内減産から、やっと回復してきた。しかし、海外の自動車販売が伸びず、全体的にパツとしない。住宅着工も伸びず、人手不足から大型案件の建設も伸びない。

◆電 線

前年比-2.3%の46,900 t。内訳は国内-2.7%、輸出が+29.9%で輸出が回復。今後を注視したい。

■スクラップ景況予想

銅建値が144万から149万へ上昇するも、再び144万まで下落。

伸銅品生産減、発生減から在庫薄。長期在庫分は相場の急落により、売らず買えずの膠着状態。メーカーは材料難ではあるが値段が合わず買えず。

■LME・為替予想

今月は以下の項目に左右される。

●米とトランプ大統領の関税政策

メキシコ、カナダへ25%、中国の10%追加関税のほか、他国への関税も予告しており今月は混乱から相場は下落傾向。

●3月のFOMC

今月開催予定のFOMC通常であれば据え置きから利上げのインフレ対策モードであるがトランプ米大統領が利下げを言及しており据え置きから利下げ予測。

これらを踏まえ、今月の銅価格は8,500ドル~9,500ドル(セツル)と予想。ドル円値は145円~155円(TTM)台を予測。銅建値に関しては125万円~151万円程度と予測。

(「2月の銅の概況及び3月の見通し」おわり)

NEDOエネ技術P G

優良品業者賞を受賞

住友電工

住友電工株式会社(井上治社長)はこのほど、「新規絶縁材

込まれる技術開発に対して事業化までをサポートする制度。電力は送配電ケーブルなどの電気抵抗で失われるため、送電損失の削減が省エネ化推進の課題。同社は、新規絶縁材料の開発により損失を削減することで高効率送電が可能となる送配電ケーブルの開発を進めており、その成果が評価された。